

会 議 録

会議の名称	西東京市図書館協議会 平成30年度第2回定例会
開催日時	平成30年7月19日（木）午後3時から5時まで
開催場所	中央図書館会議室
出席者	委員：小西会長、鈴木副会長、西村委員、山口委員、増田委員、山村委員、渡邊委員、山辺委員、藤澤委員 （欠席）東山委員 事務局：中川館長、司城副館長、奈良庶務係長
傍聴者	なし
議 題	1 諸報告 2 平成29年度西東京市図書館事業評価について 3 図書館計画策定懇談会報告について
会議資料の名称	資料1 平成29年度西東京市図書館事業評価 資料2 平成29年度西東京市図書館事業概要 資料3 分野別事業について（図書館計画策定懇談会資料） 資料4 図書館だより70号
記録方法	☐ 全文記録 ☒ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☐ 会議内容の要点記録
会 議 内 容	
（会議録承認） <u>1 諸報告</u> ○会長 諸報告をお願いします。 ○館長 第2回定例議会報告。図書館関連の一般質問は3件。図書館計画の進捗状況について、図書館協議会の提言をどう生かすのか、東伏見地域の駅前開発に関連した図書館建設について、図書館施設の配置について等。 会計年度任用職員について。国の制度運用の変更で32年度の導入を予定している。耐震方針についての市民説明会報告。主な質疑は公民館施設の代替、図書館の予約受取り等。教育委員会の事業評価について。平成29年度図書館事業概要について。13頁の予約件数は40万人以下の都市でトップ。新座市との図書館相互利用について。市のHPの図書館計画策定懇談会議事録の公表について ○副会長 嘱託員の運用が違ってくるのですか。 ○館長 直接雇用で運用していきますが、業務内容を変更していく予定です。 ○会長 嘱託員の身分保障をするという考えからきているが、個別の対応は各自治体によって違うということですか。	

- 館長 人事考課制度や評価の導入、給与体系の変更等、現在検討しています。
- 委員 嘱託職員の待遇改善なので、予算の充当額は変わらずとなると事業を見直すことで、職員がやるが増えることもあるのではないですか。
- 館長 嘱託員に職員並みの仕事をさせることで、単純作業はボランティアの力を借りるといった考え方もある必要になるかと思います。
- 会長 待遇改善はいいが、仕事の組み立て方が難しい。大学図書館では、時給1,000円で学生を雇う方法を取っています。作業を請け負う人材の配置と考え、無償のボランティアでは難しいと思います。
- 副会長 ボランティアにできることややってもらえる範囲は限界があると思います。報酬があることで責任を負わすこともできます。直営でやっていくのであれば、今までと違う働き方でやっていくということになり、仕事の中身を細かく分けていくことになります。嘱託員の働き方が違ってくことで、嘱託員の中にはそういう形を望まない方もいらっしゃると思うので、きちんと人材を確保するのが大変だと思います。
- 会長 新座市ですが、地方自治法で他の自治体にある公の施設に対して協議すれば使うことができるとあるが、受益者負担という発想ではないと思います。あまりその方向に進むことには疑問があります。
- 館長 いくら経費が掛かっているのか掴んでおく必要があるということです。
- 委員 田無駅南口の開発の看板がありますがどの程度進んでいるのですか。
- 館長 計画は、はなバスとタクシー乗り場ができるということだと思います。
- 委員 24時間予約ができる使いやすさから予約件数が多いのかと思います。
- 委員 市民説明会で予約本の受取りのことが言われていますがどうなりますか。
- 館長 何らかの方法を検討していきます。

2 平成29年度西東京市図書館事業評価について

- 会長 事業評価の説明をお願いします。
 - 副館長 本日、説明と質問をお受けして、次回に二次評価をしていただきたいと思います。評価表は実績と自己評価と分けています。一般図書の資料は利用者参加型の取組みを盛り込んだ資料の活性化、レファレンス資料は資料の有効活用、情報の提供としてパスファインダーの取組み、児童・青少年はひばりが丘図書館の外国語資料の購入、利用の活性化が課題、YA資料はひばりが丘図書館書架のリニューアルと利用者参加型として書評講座の実施、地域行政資料は電子化しにくい資料の取組みを行い、電子化が終局に向かっていることから、閲覧方法の周知、公開の方法が課題となっています。デジタイズ資料はリクエストを受けてから製作するということもあり、フル活動していますが、限界に近づいており、後継者の育成に時間がかかることが課題、デジタイズのアップロードについては計画通り進み、相互利用も順調に進んでいます。
- サービス面では、成人サービスは中央図書館に法律情報コーナーの設置をし、利用者のアクセスの改善を図るとしていますが、市民への周知を含め方向性が課題となっています。英語多読コーナーは英語教育の面からも人気があります。これまで取り組めなかったのは本の装備等の問題がありましたが、簡易な装備で利用者への提供を優先させたことで利用の伸びが顕著で

す。今後は扱う言語を増やすのか、多文化共生の視点での検討が課題です。児童サービスについては、サービスのPRの強化が課題です。人気のある大型絵本を多めに購入しました。おはなし会の専用ページの活用が上手くいっていないことから、使用した絵本の展示等の内容を周知し始めています。絵本と子育て事業は3歳児のフォロー事業を開始しました。受診者の10%程度の参加率が課題で複数年かけ検証が必要です。レファレンスサービスはデータベースの有用性を周知していく取り組みですが、利用者インターネットの利用が多く、データベースの活用がしにくい状況にあります。データベースの使い方の研修の実施やレファレンス記録の活用等、サービスの底上げをどうしていくかの取り組みです。地域・行政資料サービスは、ゆかりの人を生かした事業の取り組みです。地域の昔の話を子ども向けに講演会として実施し好評でした。外部書庫で空いたスペースを利用して書架構成を変更しました。ハンディキャップサービスは宅配ボランティアを継続的に確保していくことを目的に取り組んでいます。多文化サービスは英語・中国語・韓国語の利用案内を発行したこと、行事を開催したことが書かれていますが、今後どういう方で進めていくのが課題となっています。

- 会長 前回より見易い、わかりやすい資料となっています。本日は質疑、意見交換をし、各委員の二次評価に入りたいコメントを寄せて次回進めていきたいと思います。
- 委員 11頁の児童サービスについて、3歳児フォロー事業は具体的にどのような内容で行っているのですか。
- 副館長 本の紹介や読み聞かせ等です。
- 副会長 3歳児検診の場で行うことは難しいところもあります。
- 委員 本離れが言われる中、働きかけは必要だと思います。一度にたくさん集まる機会を利用するなど考えてほしいと思います。
- 委員 4頁の書評講座は参加人数が少ないようですが、案内の仕方に問題があったのではないのでしょうか。
- 副館長 ホームページや市報、ちらしの配布を行いました。世代的に図書館に来ている青少年が少ないので、周知が十分ではありませんでした。参加者は本に興味のある子が来ていることから高い満足度は得られています。
- 副会長 学校とタイアップすることが大事です。
- 委員 図書館に来ない人を呼び込みたいですね。
- 副会長 中高生の居場所で案内をすることが必要で、人が集まるようなやり方を考えないとだめです。
- 委員 中学生は勉強や部活で大変忙しい。開催時期や曜日、時間等考えて実施する。一般の子からの広がり的大事で、講座名も宿題解決と興味がわくようにつけるといいと思います。
- 委員 3頁の外国語絵本と、17頁の利用案内の多文化サービスがハンディキャップサービスに組み込まれているのは違和感があります。英語に関する日本人の反応、英語はツールとして将来役に立つという感覚だと思いますので、多文化サービスとしては図書館で整理して考えていただきたい。
- 会長 次期計画では分けるというようなことを書いていくことにします。デイジー資料の利用は多いですね。

- 館長 公共図書館でも、各自治体でのレベルの差がありますが、市町村立図書館では調布市が多数作成していますが、西東京市も頑張っています。
- 副会長 16頁の宅配サービス利用範囲に妊婦や内部障害の人も入るのですか。
- 館長 本を持ち帰れない人から申し出があればサービスをしています。ボランティアの人数に限りがありますので、地域包括センターを利用するなどを考えています。
- 委員 宅配は職員でお願いしたいという人もいるのですか。
- 館長 要望があればそのような対応をします。
- 委員 厳しい状況ですね。
- 会長 普及していくと変わっていくことがあります。
質問については7月中までに出す、評価コメントは8月20日を〆切としたいと思います。

3 図書館計画策定懇談会報告について

- 館長 本日配布した分野別の資料ですが、懇談会で今まで図書館が実施してきたことと課題がキーワードで書かれています。それに懇談会委員からこれからの図書館に望むことを出していただいています。本日、協議会からも意見をいただければと思います。
- 委員 ユニバーサルサービスは支援に視点を置いた意味合いが強いと思います。多文化サービスは違う文化を学び合うという意味を持ちます。
- 会長 図書館を使うのに困難がある人へのサービスと分ける必要があると思います。
- 副会長 図書館がやるサービスなので、図書館を利用するのに困難な人へのサービス、ハンディキャップサービスの括りでは狭くなります。障害を持っている人を支援する、ユニバーサルサービスだとすれば広く様々な人を対象と出来る。それぞれの国の人にサービスするのとは違うと思います。図書館利用に困難がある人へのサービスとは別に、図書館がやるサービスとしての意味が多文化サービスにはあると思います。
- 副館長 図書館のどの部門が担当するサービスかということと、サービスの名称とは切り離して考えていただきたい。
- 会長 図書館計画は、今後どういうサービスを図書館が提供していくかをまとめるものですので、今の議論を踏まえてまとめていただきたい。
本日はこれで終わります。

次回は9月6日（木）午後3時～